

地区名：富田地区

実施主体：富田地区むらづくり運動推進協議会

1 基本データ

- 地区人口 2,976人（H31.4.1現在）
- 世帯数 917世帯
- 行政区数 18行政区
- 面積 約21.7平方キロメートル
- 地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯である。



2 現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

協議会では、「花いっぱい運動」などの環境美化活動や「とみた夏まつり」、「文化講演会」の企画運営などを中心に活動を行い、住民が集い活動する場や交流の場を作り出している。

しかしながら、協議会の構成団体のなかには活動が低下し、活動が休止したり解散したりする団体も出てきている。

また、各集落においては、区長を中心に様々な地域づくり活動を行っているが、一部の集

落で、人口減少や少子化、高齢化の影響を受け、役員の担い手がおらず、集落機能の低下がみられる。



とみた夏まつり「みんなで踊ろう大野音頭」

3 事業の内容

【平成31（令和元）年度の取り組み】

「コミュニティ施設維持管理事業」

実施行政区：田野区、七板区、下麻生嶋区

森目区

「地域づくり、地域活性化事業」

実行団体：富田地区むらづくり運動推進協議会

平成31（令和元）年度は、これまで実施してきた、それぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業に対して支援をする「地域コミュニティ活動支援事業」を継続することとし、区民の安全な生活や利便性の向上、集落活動の活性化を目的とし、「コミュニティ施設維持管理事業」に4集落が取り組んだほか、個人主義、少子高齢化により衰退しつつあるコミュニティの維持醸成を図るため、「地域づくり、地域活性化事業」として、富田地区むらづくり運動推進協議会で行っている「とみた夏まつり」への支援を行うこととした。

①コミュニティ施設維持管理事業（その1）

（実施行政区） 田野区

（実施内容）

- ・同地区のJR駅近くにある駐輪場が経年劣化により老朽化が進んでいたため、補修と塗装を実施した。同地区内や周辺地区の子供や高齢者など交通弱者が利用しており、これにより利便性向上と、環境整備を図ることができ、住みよい居住空間と人口の維持増加につながっていくことが期待できる。



実施後



実施前



作業中



作業中

②コミュニティ施設維持管理事業（その2）

（実施行政区） 七板区

（実施内容）

- ・地域交流、コミュニティの場である公園の一部にコンクリート打設を施すことで、道具を置いたり、休憩したりするスペースを確保し、降雨後でも快適に安心して使用できるようになった。また、同公園内のフェンスが一部破損していたため、交換し安全を確保し、大人から子供まで安心して集える環境づくりを進めた。



実施前



実施前



コンクリート打設作業



実施後



実施後

③コミュニティ施設維持管理事業（その3）

（実施行政区） 下麻生嶋区

（実施内容）

・集落センター横のゴミステーション周辺と、集落センターの非常階段下に瓦碎石を敷設することにより、雑草を抑制し美観を保つことができ、また草刈等の手間も省け管理し易くなった。利便性向上と環境美化を図ることにより、さらに親しみと愛着のある集落センターとして多くの方が利用し、地区の交流機会の増加も期待できる。



実施前



実施前



作業の様子



作業の様子



実施前



実施後



実施後



実施後



作業の様子

④コミュニティ施設維持管理事業（その4）

（実施行政区） 森目区

（実施内容）

- ・区内のゴミ集積場横の美化と安全確保を図るため、コンクリートを打設した。また、経年劣化により塗装の痛みの激しかったゴミ集積場のブロック壁や扉などを全面塗装し、美化並びに環境衛生の保全に努めることができた。





実施後



お化け屋敷の打ち合わせ



実施後



テント立ての様子

⑤地域づくり、地域活性化事業

(実施主体) 富田地区村づくり運動推進協議会

(実施内容)

- ・毎年8月の第1日曜日に開催される「とみた夏まつり」事業が今回40周年をむかえた。

地区民の手づくり要素の強いまつりであり、地元中学生も加わり、地区住民が自ら企画し、準備運営を行い、地域住民が活躍できる場が生まれている。これにより地域コミュニティの醸成、人材の育成、地域の活性化に繋がっていく。



露店（スーパーボールすくい）



実行委員会で発言する中学生



お化け屋敷の中



子供コーナー（手作りボーリング）



ステージショー（地区の小学生）



絵画等展示



おかしまき



輪になって踊る様子



中学生デザインうちわ

4 事業の成果

少子高齢化が進み、各集落から若い人を中心に人口の流出が続いており、それに起因し、これまで実施されていた集落活動が年々低下しており、区内に設置されている広場等のコミュニティ施設も子どもの減少等により、その利用が減り、また利便性が悪いことから使用頻度が少なくなるなどし、その結果、雑草が生い茂り、また、その維持管理の負担が大きくなるという悪循環が発生している。

さらに、個人主義が進み、地域コミュニティが希薄化しており、地域活動の低下にも繋がっている。

平成 31（令和元）年度の取り組みとして、1つ目は、各集落で課題になっていることを住民自らが協働作業によりそれを解決する、地域コミュニティ活動への支援であり、それぞれの集落の課題やその解決策を地域で話し合い、実施することにより、区民の生活の利便性向上や安全な地域活動の確保、また、維持管理等の負担

軽減を図るとともに地域コミュニティを深める環境整備が図られた。

また、2 つ目は、住民のコミュニティの醸成と、地域活力を維持増進させるための、地域づくり、地域活性化事業の取り組みへの支援を行った。

自ら企画運営することにより、地域活動に参加することへの意識改革がなされるとともに、地域づくりに携わる人材の育成にも繋がっていく。

これらの取り組みを通して、自らが考え、行う地域づくりの大切さと地域コミュニティの維持向上を図ることが期待できる。

5 今後の展望

これらの取り組みを継続することにより、地域のことは自らで行うという意識の醸成と、集落の施設等の利便性の向上、また環境整備がなされることにより、これらの積極的な利用や活用による地域コミュニティの醸成と自主的で継続的な地域活動の取り組みに期待が持てる。

また地区民が集い、話し合い、物事を実施していく機会を継続することが、今後、地域が残っていくためには、大切な取り組みであると考ええる。

今後もこれらの事業を継続していくことにより、希薄となっているコミュニティの醸成がはかられ、引いては富田地区全体の活力に繋がっていくと考える。